



ニュース防災

13号

発行：興野町住宅自治会 責任者：会長

2016年8月10日

生きるために備えよう！

災害対策部今年の活動目標は、「生きるために備えよう！を念頭に活動をする。」としました。

「災害は忘れたころにやって来る」と、よく言われます。東京都は、30年以内に首都直下地震が70%の確率で起こると発表しました。最近はそのことを裏付けるかのように、たびたび千葉県や埼玉県を震源にした地震が起きています。ですから、忘れたころではなく、忘れないうちにやってくると言ってもいいかもしれませんね。熊本地震の被災者からは、「熊本に地震が起こるとは思ってもいなかったの、何も備えていなかったです。」という言葉が返ってきました。九州には、雲仙普賢岳や桜島、阿蘇山等の火山があるので、災害への備えは普段から準備しているかと思ったのですが、「起こるはずがない」という意識がそうさせたのでしょうか。

《ほっとニュース》
9月1日(木)文化放送
午前11時~12時
防災特集番組の中で災害対策部の活動が紹介されます。

トランシーバー講習会の報告

開催の目的は、消防署の協力をいただきながら、トランシーバーの使い方に慣れることと、トランシーバーの電波がどこまで届くのかを検証することでした。

日時：6月19日(日)10:00~12:00
参加人数：24人+大師前消防署員5人計29人
交信拠点：①中央公園 ②A公園 ③第一集会所そば駐輪所 ④C公園 ⑤江北平成公園 ⑥西新井小学校~西新井大師
内容：各班から本部に、周囲の状況を伝える→本部は、各班の状況をホワイトボードに記録し、班に適切な指示をする。

トランシーバーの使い方は、昨年初めて行ったので今年はどうなるか心配しましたが、やり始めると皆さんは次第に慣れて来て、上手に状況を報告していました。一方、今回初めて試みた電波の届く距離の確認ですが、大師前迄は届くが、高圧線に近い場所は聞きにくいことが分かりました。反省会では、防災訓練の一環で行いましたが、盆踊りの交通整理でも活用して、誰でも使用できるといいのではないかという意見も出ていました。



タテ階段からの担架搬送と消火器の訓練

災害時だけではなく、日常生活の中でけがをした際には階下へ搬送することになります。縦階段の搬送と消火器の使い方の訓練をしました。

日時：7月17日(日)10:00~12:00
場所：中央公園
指導：西新井消防署大師前出張所署員 6名
参加人数：44名
内容：(1)公園の階段を使って担架や毛布を使って搬送体験をしました。



(2) 訓練用消火器で使い方を体験しました。



実際の階段で搬送を行うのは、階段の狭さや体力等で厳しいのが現状ですが、人数が揃えば知恵を出し合って出来るのではないかと訓練を通して伺えたのではないのでしょうか。

備えよう 12a



地誌

災害対策部

回を重ねてきましたので、ようやく興野町住宅の防災に対して、中身は薄いものですが簡単な手引書をまとめられる頃と思い、取り掛かることにします。ここで言う地誌とは、私達が暮らしております足立区西新井本町 14、15、16 番地の土地と近隣の土地の成り立ちを調べることです。

先ず私事ですが、埼玉県北足立郡と東京都足立区との関わりを、子どもの頃からの肌を通しての体験を書きます。北足立郡と南足立郡(足立区)は、もとは足立郡と言う一つの郡でした。私の母親は、古い地名で埼玉県北足立郡大門村と言う所で育ちました。

そこで母親が、年 1 回か 2 回の里帰り(7 日~15 日位)の際には、当然ですが私も連れられて大門村に行きました。その大門村は、今の「さいたま市緑区」ですが皆様に説明する際には、南北線終点の「浦和美園駅」がある辺りで、その近くには、埼玉スタジアムがあり、東北自動車道、国道 122 号線が通り、駅の近くには綾瀬川と芝川が流れていて、そのあたりの台地の上に大門村がありましたと説明しています。また古くは、日光例幣使街道の本陣(門が残っています)があり、江戸時代の人の行き来を感じるところです。その大門村に行った時と、今私が興野町住宅に住んでからを思い出して記してみます。また、地縁があると言うのは、昔「埼玉平野」で暮らしていた名残を見聞したことにあります。大門村のあたりには見沼用水がありました。しかし水源が干拓されて見沼用水の代わりに作られたのが見沼代用水で、灌漑用と舟運のためにも利用されたようです。その用水の取水口は、現在の埼玉県栗橋にあります。実は見沼代用水の水路が興野町内の屋敷内に通じていた跡を見せてもらったことがあり、その話からなおさら強く縁を感じたのです。私事ですが母方の祖母は年に何回か西新井大師へお参りに来たと言っていましたし、祖父は大八車で千住市場へ来たとも言っていました。また母親の実家は、正月の支度を鳩ヶ谷の街で整えており、幼時の私もせがんで鳩ヶ谷へ連れて行ってもらったことを覚えております。そのようなことから交流と言うのは、土地の上(かみ)

らと土地の下(しも)へと自然に流れるものだと実感しました。

世話人さんによる、

初めての夜間内部訓練を行いました。

災害は、昼間に限らず夜間も起きることから暗い中での訓練も必要と考えて、世話人さんだけの夜間訓練を行いました。

先ずは、第一集会所で暗闇を体験して懐中電灯を照らしながら、避難する場合に何が必要かみんなで考えました。

想定条件：①電源が停止 ②発電機を運転する設問 1. どんな危険がありますか？

- ・外に出るかどうかが判断が難しい。
- ・どこに行けばいいのか分からない。

設問 2. 対応はどうする？

- ・懐中電灯が必要。
- ・ケガをしないように靴を履いて、長そで、長ズボンで軍手も必要。



設問 3. 避難所では、どんな人が必要ですか？

- ・責任者(指揮官)や物資の搬入搬出係、発電機の照明係、避難者の確認係、

設問 4. 発電機を運転するには？

- ・雨に濡れない場所(自転車置き場等)に置く。
- ・室内だと一酸化炭素中毒の危険性があるので、室内以外のところに置く。
- ・延長ケーブル(20m)が必要。
- ・設置場所が 2 か所あると使い勝手がいい。

成果

日常、真っ暗闇を経験する機会はないためでしょうか、参加者が集中して真剣に意見を出すなど、一体感につながった。

編集後記



今年の夏は、連日の猛暑から夕方放送では「熱中症に気をつけましょう」と呼びかけていますが、リオ・オリンピックの熱気がさらに暑い夏に拍車をかけているようで、若者が活躍する姿を見るのは心強いものですね。しかし暦の上では立秋が過ぎました。子どもたちには楽しい夏休みがそろそろ終わろうとしています。子どもたちにとって夏休みの経験が、次のステップにつながる、そんな夏休みであってほしいものです。(M・M)